

議 事 録

会 議 名	平成26年第1回緑警察署協議会（定例会）
日 時 ・ 場 所	平成26年1月30日（木） 午後1時30分から午後4時00分までの間 ----- 緑警察署 講堂
出 席 者	<p>1 委員</p> <p>佐藤考明会長 宇高和子委員 恒川栄治委員 山田洋美委員 福島康高委員 小島 始委員 堀田正治委員 長塚 啓委員 柴崎美喜夫委員 中野久子委員 横井政光委員 山田裕之委員 以上12名（定数12名）</p> <p>-----</p> <p>2 警察署員</p> <p>佐藤署長 山口副署長 都築警務課長 渡邊会計課長 片岡地域課長 河合交通課長 加藤警備課長 以上7名</p> <p>-----</p> <p>3 有識者等</p> <p>なし</p>
諮 問 事 項 等	平成25年の犯罪情勢と今後の取り組み
答 申 等 の 概 要	<p>1 住民が他人事と思わない広報を推進してください。</p> <p>2 体験談等具体的な事例を加味した切迫感のある内容を掲載した情報を回覧板等で提供し、防犯意識の共有に努めてください。</p> <p>3 現在実施している防犯講話の積極的な広報に努めてください。</p> <p>4 危険な場所・箇所、犯行手口等を紹介した広報に努めてください。</p>
そ の 他	次回開催予定 平成26年4月24日（木）午後1時30分から

会議の経過及び発言の要旨	
1	委嘱状の交付
	新たに委嘱された3人の委員と、再任委員3人に委嘱状を交付した。
2	会長・会長代行の選出
3	署長挨拶
	署長から、新たに3人の委員を迎えるに当たって、警察署協議会制度の発 足経緯、役割を説明するとともに、昨年の諮問事項に対する答申及び取組結 果を振り返り、地域の安全を確立するため忌憚のない意見を伺いたい旨の挨拶があった。
4	前回の答申に対する施策の推進状況（警備課長説明）
	(1) 諮問事項
	南海トラフ巨大地震を想定した警察の取組み
	～広報、避難誘導と地域防災組織等との連携の在り方
	(2) 答申事項
	警察署のみならず、名古屋市災害対策本部緑区本部への答申
	ア これから新たに作成するハザードマップには、緊急災害時に住民がど う行動すべきか、よりわかりやすくポイントを明記してください。
	イ 海拔基準、避難ルート等日々更新される情報について、随時住民への 提供、広報活動に心掛けてください。
	そのツールとしては、パトネットあいちに加えツイッターなど新しい ツールを検討してください。
	ウ 住民による自主防災組織の人材育成を検討してください。
	(3) 施策の推進状況
	記録者
	警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
ア	ハザードマップを、よりわかりやすくしポイントを明記
	名古屋市は来年度に津波ハザードマップ、地震ハザードマップを新たに発行する予定であることから、災害弱者である高齢者の方にも、文字を大きくし、わかりやすい内容に配慮されるよう緑区役所に提言した。
イ	情報の随時提供、広報活動と新しいツールの検討
	(ア) 情報提供、広報媒体として、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の活用については、今年度中（平成26年3月まで）に市災害対策本部（名古屋市）でも運用を開始予定であることから、災害対策本部に対しての情報提供を行う。
	(イ) 地震発生時の対応の基本について市民啓発活動を実施
	地震発生時の対応チラシの配布（11月17日区役所、緑区防災フェスタ会場、1月10日大型ショッピングモール、110番の日会場）
	(ウ) 海拔表示の設置
	区内には現在電柱50か所に表示されているが、今年度中に官公署（当署を含む）外壁にも既存のものに替えて視認性に配慮した表示板を設置する予定である。当署交番についても今年度中に外壁等に視認性に配慮した設置を予定している。
ウ	自主防災組織の人材育成
	本年から、消防団をはじめとした地域防災組織の定例会合に、当署の災害担当幹部を派遣し、平素から地域ボランティア活動との連携を密にすることとした。
エ	その他の取組
	記録者
	警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
津波からの避難誘導	
当署の交番、警ら用無線自動車（パトカー）に大津波・津波警報発令時に使用する署作成の避難誘導対処要領、誘導経路の地図を配布し、高所若しくは津波避難ビルへの住民避難を迅速に行えるよう徹底した。	
5 諮問	
(1) 諮問事項	
平成25年の犯罪情勢と今後の取組	
(2) 諮問事項に対する説明（署長説明）	
緑区内における刑法犯認知件数は、平成16年の5,649件をピークに減少傾向にあり、平成25年は3,019件とピーク時の約半数（53.4パーセント）まで減少した。しかしながら、強盗、住宅対象侵入盗、乗物盗（自動車盗、自転車盗、オートバイ盗）等が増加傾向にあり、この種犯罪の発生は、区民の体感治安に悪影響を与える要因となっている。	
こうしたことから、本年、当署では区民の身近で発生し、かつ区民の生活に大きな不安を与えるような犯罪を重点犯罪と定め、各種警察活動を強化し犯罪抑止に努めていくが、委員の皆さんが平素感じていることや警察活動についての御意見等を頂きたい。	
6 協議	
委員～防犯カメラの設置と犯罪が減少する関係はいかがか。	
警察～防犯カメラは、抑止効果と同時に、検挙を向上させる効果がある。	
防犯カメラを設置する一方、防犯カメラが作動していることを表示して、地域全体の犯罪抑止効果の向上に努めている。	
記録者	警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
また、関係団体を通じて、既に設置している方々に道路等が写るよう	
撮影方向の調整を依頼している。	
委員～神の倉地区では、防犯カメラ設置のモデル地区に指定されたほか、青	
パトの活動によって、地域の安心感が向上し、犯罪抑止の効果が上がっ	
ている。	
警察～防犯カメラの設置に当たっては、住民とともに効果的な設置場所を検	
討することによって地域の防犯意識が高まり、また防犯カメラの作動を	
表示することによって相乗効果が得られている。	
委員～街路灯が暗いと感じている。設置を増やすことができないか。	
委員～街路灯は土木事務所が管理し、設置の基準がある。防犯灯は町内や自	
治会で設置することができ、補助制度もある。	
委員～住宅対象侵入盗の発生状況はいかがか。	
警察～同一地区内で連続発生する傾向がある。	
委員～発生情報を発信し、住民自らが防犯に努めるよう気運を高める広報が	
必要である。	
警察～パトネットあいちによる地域安全情報の配信を始め、学区別の安全情	
報は定期的に発信している。今後も、住民に届く情報発信に努める。	
委員～自転車盗の被害が多いが、鍵が1個では被害の発生を防ぐことがでな	
い。身近な犯罪として抑止に取り組む方策はいかがか。	
警察～駐輪場の警戒を実施しながらツーロック広報を行っているが、無施錠	
による被害も少なくなく、盗難防止の意識付けの難しさを感じる。	
委員～自転車盗は、少年犯罪が多いのか。犯罪の種類によって抑止効果を上	
記録者	警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
げる方策はいかがか。	
警察～犯罪によって抑止方策が違う。防犯教室では、実際にガラスを割るなど参加体験型とするなど工夫している。	
少年犯罪は、保護者を交えて非行防止に努めている。	
委員～P T Aの活動で非行少年に接する機会があるが、非行防止に対する保護者の意識は必ずしも高いとは言えず、家庭環境の問題も感じている。	
警察～少年犯罪と言えども、逮捕を含め強い姿勢で捜査に望む。	
委員～犯罪の減少は、街頭での警察活動のほか、防犯講話などの活動に効果を感じている。	
委員～地域の安全は住民の活動が欠かせず、情報を共有するため声を掛け合うことが大切である。	
委員～部品ねらい、車上ねらいの被害が減少している理由はいかがか。	
警察～多発していた地域の例として、周辺施設を利用するための駐車場を開放し、防犯カメラを設置したほか、発生時間帯の警戒を強化した。	
飲食店を対象とした被害では、車内に荷物を置かないよう店舗及び利用客に広報を繰り返した。	
委員～カーナビを対象とした被害では、盗難防止ボルトの効果はいかがか。	
警察～部品ねらいの減少は、盗難防止ボルトの効果に加え、カーナビにパスワードが設定されるなど、企業の防犯に対する協力が欠かせない。	
委員～高齢者に対する防犯講話は依頼できるのか。	
警察～各学区で開催している。依頼があれば実施する。	
委員～防犯講話の実施を広報しているか。警察本部の防犯講話は休日は対応	
記録者	警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
が困難と聞いている。	
警察～当署の活動として実施している。	
委員～地域の連携に有効な防犯ボランティア活動を広報することも良いのではないか。	
委員～緑区ホームページを活用することもできるが、関心がないと見ない。	
委員～パトネットあいちの普及率を上げるため、周知をしてほしい。	
委員～犯罪の発生は、季節など時期的な影響はいかがか。	
警察～家が長期間不在となる時期は、住宅対象の侵入盗に警戒を要する。	
委員～犯罪組織を把握しているか。	
警察～目撃情報、犯人の検挙から手口を分析し、犯行の状況を把握している。	
委員～住宅の窓等に設置する補助錠を普及させてはいかがか。	
警察～補助錠の設置は繰り返し広報しており、必要性を感じている。	
委員～パトロールは、狭い道など生活道路の警戒に当たってくれと安心して る。自転車を利用した警戒は可能か。	
警察～当署の事情として、主な警察活動の交通手段は自転車ではないが、各 家庭を訪問する巡回活動は、徒歩を指示している。	
委員～ボランティアとして、夜、徒歩で行っている防犯活動は、犯罪の抑止 力を感じている。	
7 答申	
(1) 住民が他人事と思わない広報を推進してください。	
(2) 体験談等具体的な事例を加味した切迫感のある内容を掲載した情報を回 覧板等で提供し、防犯意識の共有に努めてください。	
	記録者 警務係長

